

さいたま市立与野本町公民館



特に力を入れていることや特徴的な取組は何ですか？背景や実施上のポイントなどと合わせて教えてください。

◎主催講座の充実とサークル活動の支援を2本柱に公民館運営に努めてきた。そして今回主催講座を地域に根差し関連付けた講座を企画した。江戸時代から明治時代に最盛期を誇った「与野の市」は、4と9のつく日の六斎市として月6回開かれていた。近在近郊から集まった穀類を商人が買い取りにやってきました。そのうち穀類以外の商いも始まり、より多くの人が集まるようになった。その客を目当てに見世物師や大道芸人も集まり賑わった。円阿弥の万作踊りは、日枝神社の秋祭りを中心に豊年満作を祝い、よしず張りの舞台をかけ、歌や踊りによる民族芸能が奉納された。「坂東」の芸名を持つ人もいて、「忠臣蔵」「かっぱれ」「相撲甚句」等が上演された。大戸の神楽も盛んで中心になった「岡田社中」は出張公演も行ってた。現在神楽のお囃子は子どもたちに引き継がれている。また、かさもり（笠森）寄席として「桂一門（歌丸）」による寄席を開催していた。こうした民族・伝統芸能を今に呼び起こすべく「日本浪曲協会」に依頼した。◎保育園・小・中・高等学校との連携・交流で講座の実施。①発表の場が少ない中学校の文化部（美術部）の作品展を実施。②小学校2校の特別支援学級の作品展を実施。③隣接する保育園との共催事業で子育て支援講座の実施。④小学校1校、中学校2校で学校評議員（館長）、中学校2校からの未来くるワークと高等学校1校からインターンシップを受入れている。



公民館としての様々な取組によって得られた、成果や効果にはどのようなものがありますか。（できれば箇条書きで）

特徴的な取組による成果・効果

伝統・民俗芸能を紹介することで、地域の歴史や伝統に誇りを持ち、地域に対する愛着を持って生活できることに繋がった。

これまでの取組全体による成果・効果

小学生や中学生の作品展は、小中学校に行く機会のない年齢層の方々に新鮮な感覚で受け入れられ、世代間交流の一助になった。

H30	・年忘れ講談 37人
	・津軽三味線立春コンサート 68人
R元	・二胡の調べ 79人
	・年忘れ落語 84人
	・ニューイヤーコンサート 67人 (箏、チェロ、ヴァイオリン)
	・伝統芸能に親しむ 「浪曲与野本町亭」 82人

取組の改善・検証を行う仕組みとその方法について教えてください。

・その場での感想や意見の集約 ・公民館運営委員会での意見集約 ・サークル代表者会議での意見集約 ・学校評議員（小学校1校、中学校2校）として直接コミュニケーションを図る。また、講座によっては学校等に直接チラシを届け意見を聞く。

新たに、また、継続して取組を行う上で、苦労した(している)こと、どう乗り越えたか(ようとしてるか)を教えてください。

・イベント講座と地域学習講座との連携を図り、学習内容をより具体的にしたい。 ・来館者の心情を理解し期待にこたえられるものにする。高齢者学級の参加者は、70代・80代の方々も向学心に溢れお元気であるため、職員の公民館運営や講座への企画力を互いに高め、各世代に満足していただける講座にしたい。

公民館として大切にしていること、大切にしている考えなどを教えてください。（キーワードは赤字）

～市民に愛される公民館～

- ◎古くても きれいで使いやすい公民館
- ◎ルールとマナーを大切にされた公平で開かれた公民館
- ◎安全・安心・親切的な公民館
- ◎利用者が生きがい・健康・仲間づくりができる公民館



最後に、これから公民館をどのようにしていきたいと考えていますか。次の仕掛けやビジョンについてもぜひ教えてください。

- ・公民館で学んだ方々が、ライフワークとして取り組む学びを見つけられる公民館にしたい。
- ・市民が、常に心身の健康を維持・向上することができる公民館でありたい。
- ・地域の教育力を学校へ、学校の元気と教育力を地域へという、地域と地域、地域と学校の橋渡しをしていきたい。

